

寺内遺跡・大城遺跡・舟塚古墳群

(てらうちいせき) (おおしろいせき) (ふなつかこふんぐん)

所在地：水戸市牛伏町 266-8 番地ほか

調査期間：令和2年4月1日～令和2年7月31日

調査面積：4.032㎡

委託者：水戸土木事務所

調査原因：主要地方道石岡城里線バイパス整備

調査機関：公益財団法人茨城県教育財団(内原事務所)

Tel.029-225-6587 <http://www.ibaraki-maibun.org>

遺跡の立地

寺内遺跡・大城遺跡・舟塚古墳群は、水戸市西部に位置し、桜川右岸の標高約42～45mの台地上に立地しています。周辺には、牛伏古墳群(うしぶしこふんぐん)(現在:くれふしの里古墳公園)、中道遺跡(なかみちいせき)、大足城跡(おおだらじょうあと)などが所在しています。昨年度調査した中道遺跡では、古墳時代や平安時代の可能性がある掘立柱建物跡や、平安時代に廃絶された道路跡、室町時代の掘立柱建物跡と井戸跡などを確認しました。



寺内遺跡・大城遺跡・舟塚古墳群と周辺の遺跡

調査の成果

今回の調査により、寺内遺跡では、平安時代の竪穴住居跡6軒や箱薬研堀(はこやげんぼり)の堀跡1条など、大城遺跡では、縄文時代の竪穴住居跡4軒と平安時代の竪穴住居跡1軒、時期不明の掘立柱建物跡2棟などを確認しました。遺物は、縄文土器の深鉢、土師器の坏(つき)や甕(かめ)、須恵器の坏や蓋(ふた)、長頸壺(ちょうけいこ)、甌(こしき)などが出土しており、この地域では、縄文時代や平安時代に、集落が断続的に営まれていたことが分かりました。また、舟塚古墳群では、3か所の土坑から蔵骨器(ぞうこつき)と呼ばれる火葬した人骨を納めた平安時代の土器が出土しました。この時代の火葬は、僧侶や有力者など限られた人の埋葬形態と言われており、有力者の存在や仏教の浸透が推測されます。



平安時代の竪穴住居跡(寺内遺跡)



逆さに埋められた蔵骨器(舟塚古墳群)

寺内遺跡・大城遺跡・舟塚古墳群から出土した遺物

3つの遺跡からは、古墳時代から奈良・平安時代の頃まで使われた土師器（はじき）と呼ばれる素焼きの土器、1200度以上の窯で焼かれた須恵器（すえき）と呼ばれる青灰色の土器が出土しました。

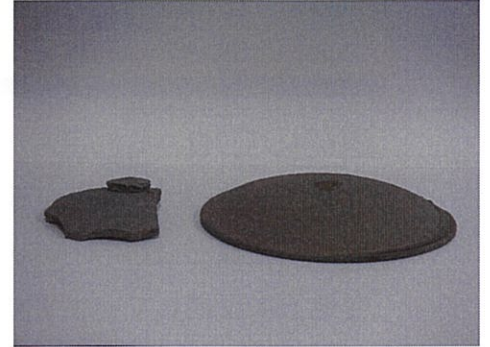
寺内遺跡



坏や高台付坏が出土した平安時代の竪穴住居跡
(第2号竪穴住居跡)



坏・高台付坏（須恵器）
食べ物を盛る食器（供膳具）として用いられました。



蓋（須恵器）
蓋を被せた湯呑み茶碗と同じように、坏とセットで用いられていました。

大城遺跡



竈から多くの土器が出土した平安時代の竪穴住居跡
(第2号竪穴住居跡)



坏（土師器）
内面が黒色になっているものが確認されました。黒色土器とも呼ばれています。



甗（土師器）
穀物を蒸す土器のことで、底に穴が開いています。甗の上ののせて使用しました。

舟塚古墳群



蔵骨器（須恵器）

現在の骨壺と同じです。火葬した人骨が入っていました。逆さに埋められた2点は、口縁部にふたをされた状態で出土しました。